

第49回 日本小児外科学会学術集会

The 49th Annual Meeting of the Japanese Society of Pediatric Surgeons

「万が一のとき・・・こどもの一次救命処置」

施設名	東京都立小児総合医療センター 救命・集中治療部 部長	演者名	清水 直樹 先生 (シミズ ナオキ)
<p>目の前で突然、人が倒れたり意識を失ったりしたら、あなたならどうしますか？ 突然の心停止で倒れながらも救命された人々の多くの場合では、現場に居合わせた市民が“何か”のアクションをとっていたと報告されています。</p>			
<p>その“何か”とは、倒れた人に対する正しい心肺蘇生であることもありますが、人工呼吸だけだったり、胸骨圧迫だけだったり、ということも含まれています。ここで重要なことは、“何もしない”ということが、結果を最も悪くしていたということです。</p>			
<p>このことは、心停止に至った子どもの場合でも同様です。突然倒れた人に対しては、正しい心肺蘇生が行われることが最終的な目標であるにせよ、完璧でなくても、その一部の要素だけであっても良いので、“何か”をしてあげる「勇気」をもっていただきたいのです。あなたのその「勇気」で、目の前の幼い命を助けることができるかも知れないのです。今日は、あなたにその「勇気」のエッセンスをお伝えしたいと思います。</p>			
<p>【略歴】</p>			
<p>1990年千葉大学医学部卒。</p>			
<p>千葉大学医学部附属病院にて小児科研修後、国立小児病院麻酔科、カナダ・トロント小児病院集中治療部・同救急部を経て、</p>			
<p>2002年より国立成育医療センター総合診療部救急診療科・手術集中治療部勤務（2006年より医長）。</p>			
<p>2008年7月より君津中央病院救命救急センター救急・集中治療科部長。</p>			
<p>2010年3月より現職。</p>			
<p>国際蘇生連絡委員会（International Liaison Committee on Resuscitation; ILCOR）</p>			
<p>小児蘇生部会委員（Paediatric Life Support Task Force）として、</p>			
<p>2005年から救急蘇生ガイドライン策定に関与してきた。</p>			
<p>日本蘇生協議会・日本救急医療財団ガイドライン作成合同委員会共同座長、</p>			
<p>日本小児救急医学会理事等。</p>			